



# つぎのいっぽん

地域力、福祉力、市民力 チカラをあつめる、つなぐ、高める、広げる～市民が主体の地域づくりを!

## 講演会 「NPOの次のフェイズとは—プラットフォーム型地域づくり」



日時：2019年6月8日(土) 15:00～17:00(14:45受付開始)  
 場所：千葉市生涯学習センター 3階 大会議室(千葉駅より徒歩8分)  
 講師：松原明さん(認定NPO法人シーズ・市民活動を支える制度をつくる会理事)  
 参加費：500円(資料代)  
 定員：80名(先着順)  
 主催：NPOクラブ(問合せ・申込みは下記連絡先まで)  
 ※テーマに関心のある方はどなたでも参加いただけます

## NPOクラブ第19回 定期総会 同日 13:00～14:30 同会場で開催

※運営会員以外の方も傍聴できます。

## 民ボラ2019 in 千葉 —第37回全国ボランティア推進団体会議— 「SDGsが取り残すもの～今ある地域課題をSDGsで解決できるのか?～」

日時：2019年7月6日(土)～7日(日) 全体会 7/6(土) 13:00～15:00 分科会 7/6(土) 15:15～17:45 この後、懇親会 7/7(日) 9:00～12:30  
 会場：生活クラブ生協千葉本部

(千葉市美浜区5-21-12、京成検見川駅より徒歩10分)  
 参加費：1日参加 2,000円、2日参加 4,000円、懇親会 2,000円  
 定員：全体会 80名(3階ホール)、分科会 各30名  
 主催：第37回全国ボランティア推進団体会議実行委員会  
 問合せ・申込み：2019年度事務局団体 NPOクラブ(下記連絡先まで)  
 ※民ボラは、全国の民間ボランティア活動を推進している団体が集まって1983年から続けている会議です。テーマに関心のある方はどなたでも参加いただけます。



## 景観まちづくりフォーラム in 学園通り —楽しいをカタチに—

日時：2019年6月15日(土) 10:00～16:00

会場：千葉大学けやき会館 3階レセプションホール (13:30～のフォーラム)  
 ※午前は千葉大学西千葉キャンパス～京成みどり台駅近辺のまち歩き  
 定員：100名(申込み先着順、まち歩きは40名) 参加費：無料  
 主催：景観まちづくり千葉協議会、千葉県  
 問合せ・申込み：NPOクラブ (下記連絡先まで 5/27申込み締切)



## 総会の準備は万全ですか。心配なことはご相談ください。



NPO法人の設立や会計、組織運営、資金調達、助成金申請、組織連携などNPO・市民活動に関すること何でもご相談ください。(1時間 3,000円。メール・電話での簡易な相談は無料です。)相談員の派遣も可能です。上記料金のほかに交通費実費をいただきます。

〈編集・発行〉 特定非営利活動法人(認定NPO法人) ちば市民活動・市民事業サポートクラブ(NPOクラブ)

〒261-0011 千葉県千葉市美浜区真砂5-21-12 TEL 043-303-1688 FAX 043-303-1689  
 Mail: npo-club@par.odn.ne.jp URL: http://npoclub.com  
 ブログ: http://blog.canpan.info/npoclub1  
 Facebook NPOクラブで検索 Twitter NPOクラブで検索

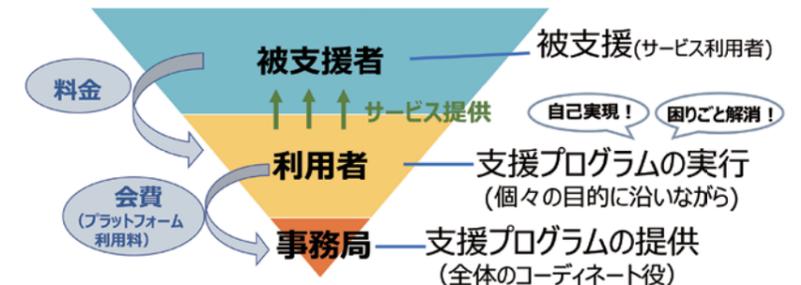
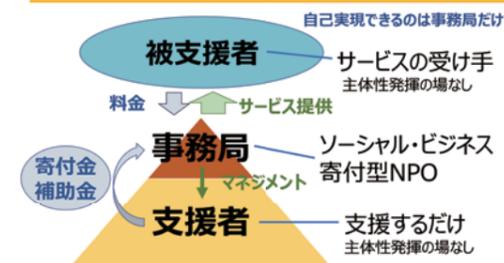


・運営会員24名 賛同会員83名 発行1,000部 会員・県内外市民活動支援センター・自治体等に送付しています。

会員・寄付募集中!

## プラットフォーム型へ

NPOのこれからの形、利用者=多くの参加主体



## NPOの世代交代～カギは「任せる」、「プラットフォーム」型にシフトする

近年、長い実績のある県内の団体から若い世代が入ってこない、定着しないなど世代交代を心配する声を聞くようになりました。千葉県NPO法人実態調査(H29年実施)でも、抱える課題として最も多い「団体内の高齢化」は、半数近くの団体が挙げています。役員・職員の年齢構成は60歳代が主だという団体が最も多く、70歳代が主な団体も過去3年の経過をみても年々増えており、高齢化が課題だと回答する団体が著しく増えている様子もうかがえます。

このような状況を受けて、NPOクラブでは、松原明さん(認定NPO法人シーズ・市民活動を支える制度をつくる会理事)を迎えて意見交換会を行いました。松原さんは、NPO法人の高齢化、世代交代に関連して次のように語っています。

の欲求は増してきている。この自己実現の場をどう、新しい人に提供できるかがポイントとなる。組織を小さなグループに分解し、それぞれがリーダーを作って活動を展開し、その全体でゴールを達成していくという「プラットフォーム」型への転換が求められる。課題ごと、年代別など、さまざまな形でグループは構成できる。メンバーを固定化せず、卒業していけるような仕組みも設計する。新しい人が入ってこないのは、年長者が居座っていて、若い人が活躍できる場がないからだ。NPOの事務局の役割は、従来の個々のスタッフをマネジメントすることから、このようなグループをマネジメントすることへ移っていく必要がある。さらに、このようなプラットフォームに行政や企業などの参画を求め、そこに収益源を確保しておくことも重要だ。」

市民に寄り添ってきたNPOだからこそ作れる新しい市民参加の仕組みが実現すれば、NPOの未来だけでなく、地域の豊かな未来も見えてくるのではないのでしょうか。NPOの腕の見せ所です。

「世代交代する場合は、ゴール設定を明確にしたうえで、次の世代に任せきることが大事だ。世界中で組織に所属する必要性や意欲が下がってきている。一方で自己実現

※「プラットフォーム」型枠組み、NPOがこれから目指すべき方向性など 詳しい内容については、6月8日(土)の松原明さん講演会にぜひご参加ください。(詳細は裏面お知らせを参照ください)

# NPOの人材、団体の現状は

2019年2月末現在、県内には、NPO法人が約2,000法人あります。NPO法(特定非営利活動促進法)が制定されて20年経つなかで、設立10年以上の団体では、「地域の課題を何とかしたい」と団体を設立した当初のメンバーと、事業の枠組みができた後に「働く場」として関わるメンバーとの間で、団体のミッションの理解、共有が難しくなっている様子がうかがえます。活動を継続するためには、どうすれば良いのか考えていきたいと思っています。

## ニーズがあっても人材が確保できない

「認定NPO法人たすけあいの会ふれあいネットまつど」では、介護保険・障害福祉の制度サービス事業とあわせて「ふれあいサービス」活動(有償ボランティア活動)を行ってきましたが、毎年『新入会員研修会』では事業内容の説明だけでなく、有償ボランティア活動とは? NPOとは? 団体の活動目的・理念は? なども伝えています。

## 代表 佐久間浩子さんから

活動を始めて20年。事業内容は多様になりましたが、制度サービス以外の活動では採算を取るのには難しく、介護保険制度の見直しで収益は総じて減少しています。資金確保が難しい中、人材の確保に苦慮するこの頃です。「たすけあい活動」を継続してきた団体の中には、担い手不足のため解散する団体も出てきました。地域でのニーズは大きくなっているのに活動を継続できないジレンマを感じています。

### 認定NPO法人 たすけあいの会ふれあいネットまつど

(活動内容)

#### 1. 「困ったときはお互いさま」のたすけあい活動

- ・有償ボランティア活動(ふれあいサービス)
  - ①移動サービス(車両を使って介助付の外出支援)
  - ②生活援助サービス(お話し相手、見守り、家事援助)
  - ③施設内サービス(病院内の付添、洗濯や買い物など)
- ・制度サービス(①介護保険②障害福祉)

#### 2. 支え合い助け合いのある地域社会づくり活動

- ・支え合い・助け合いを広める活動
- ・ふれあいの居場所「みんなち」活動
- ・おでかけ活動(移動困難者の外出・レクリエーション)
- ・元気シニアの活躍サポート事業
- ・福祉、介護従事者養成事業
- ・東日本大震災被災者支援活動

- ・正会員 126人(ボランティア、平均年齢64歳)
- ・ふれあい会員 244人(ふれあいサービスの利用者)
- ・賛助会員 22人、5法人

松戸市金ヶ作99-6  
TEL 047-710-7450  
E-mail : fnm2011@r4.dion.ne.jp



## 密なコミュニケーションで思いを共有

NPO法人日本ファイバーリサイクル連帯協議会(JFSA)は、古着のリユース事業を通して、パキスタンの人々と協力しながら、スラムに暮らす子どもたちの自立を支える活動を行っています。

JFSAでは、古着などの回収、仕分けやコンテナ送り出し、イベントでの出店販売など様々な場面で、多数のボランティアや協力団体が参加しています。参加者との1対1のコミュニケーションを大切にしてきた結果、当事者意識が生まれています。また、働きにくさを抱える人たちの場にもなっています。そして、人の輪が広がる良い循環が生まれ、活動を支えています。

一方、専従スタッフは、子どもたちの支援活動を継続して行うためには、古着を何とか確保し、販売することが必要かと年間計画を立て、皆、理事として各担当が責任をもって働き、団体が事業によって自立することを大切にしています。代表の引継ぎを気負わず行えたというのも、スタッフ間で活動者としての理念を共有しながら、やりがいや日々実感できる環境があったからこそだと感じます。

## 代表 依知川守さんから

団体発足から24年、代表を引き継いで3年。人材に関して困っているのは、以前は多かった専従スタッフの応募が、この5~6年少ないこと。「国際協力」「社会参加」「古着」などの切り口が響かなくなったのだろうか。様々な世代が混じり合い、可能な形でつながり、楽しめる場として活動を続けるなかで、手を挙げてくれる人が現れてくれれば。

### NPO法人日本ファイバーリサイクル連帯協議会(JFSA)

(活動内容)

#### 1. 古着のリユース事業

- ・古着の回収、仕分け、国内のショップでの販売、輸出

#### 2. パキスタンのスラム地域の学校との連帯事業

- ・現地での学校の支援
- ・古着を輸出し現地販売、学校の運営費に充当

千葉市中央区都町3-14-10

TEL 043-234-1206

E-mail : jfsa@F3.dion.ne.jp



# 写真展「忘れない東日本大震災—あれから8年」

## そごう千葉店B1 そごうギャラリーにて 2019.3/5(火)~11(月)に開催しました

震災から8年たちましたが、千葉県内には、未だ2,257人(H31.2/7現在、復興庁発表)の福島県からの避難者が暮らしています。避難区域指示が解除されても帰れない方、避難先で生活の急変に対応できない方、補償・賠償が無くなり今後の生活不安が大きくなっている方など、個別に様々な事情を抱え暮らしています。多くの方にご覧いただき、震災・原発災害を思い出してもらい、未だ苦しんでいる被災者がいることに心を寄せていただきたいと思います。写真を展示しました。また、千葉県内で支援活動を継続している団体のパネルを展示、支援の大切さをアピールしました。



「感想・メッセージノート」を設置したところ、写真展をご覧いただいた方々から書込みがあり、みなさんの思いを知ることができました。「私も三陸町出身です」と書き出した被災地となった同郷の方への思い、「心が通っていない」と東京電力や国への問いかけ、そして「我慢はだめだよ〜」という避難者への思いやりのメッセージでした。写真展がちょうど3月11日を含む期間に開催できたこともあり、「書かずにはいられない思い」につながったのかもしれない。

●福島県県外避難者相談センター(ちば) TEL:080-5418-7286 住所:千葉市花見川区検見川町3-159-2

## 写真展で「活動紹介」パネルを展示した団体からのメッセージ(抜粋)

・今回参加することで、当時の支援活動を思い出しました。被災された方、支援する方、たくさんの方々にご協力いただき、ボランティアバスを運行できました。被災地の衝撃的な風景、被災者からのありがたい言葉、今でも心に残っています。

(千葉市社会福祉協議会)

・パネル作業をしながら、ボランティア先で出会った方々の笑顔思い出、活動してきて良かったと改めて感じることができました。同時に来年の活動を考えるきっかけにもなりました。被災者の方々や現地の子どもたちとの交流を通して、心の支援の大切さにも気づかされました。私たち学生に出来ることは何なのか、これからも考え活動していきたいと思いました。

(千葉大学ボランティア支援学生スタッフ)

・私にも何か出来ないのか?..その年の6月に岩手県の現場に向かい、壊滅状態の「県立高田高校」校舎を見て胸が痛くなり呼吸が止まるのかと感じました。あれから陸前高田広田湾にある漁港へ通い続けて8年間

で100回を越えました。「忘れない・伝えたい・風化させない」活動は今後も継続していきます。

(千葉ふなボランティアネットワーク)

・たくさんの思い出の中から、どの写真を選ぶかワイワイガヤガヤ。もうふるさと福島へ帰られた方々のことを思い、キャプションをスタッフで考えました。「お茶っこカフェがあるから頑張れた!」という声を聞かせてもらい、私たちもまた元気をもらうことができました。

(わかばお茶っこしよう会)

・私たち大学生にとって震災時は小学生で、当時は何もできず、また遠い場所での出来事だと思っていました。今、改めて震災の現状を知り、風化させてはいけないと思いパネル展示に参加しました。SNSなどで現地の様子を発信することで、被災地を応援すると同時に、震災について常に忘れずに、今後の災害に備えて準備を怠らないという意識を持つことが大切だと感じました。もちろん、私たちも東北に行きます!

(千葉商科大学人間社会学部)



津波の襲来が時系列でわかる写真、被災者の体験談など同県の被災地、千葉県旭市提供の展示物に足を止める人も。



被災地や千葉県内支援団体の活動紹介パネル



震災当時の写真、復興の様子がわかる写真やパネル(福島県、福島県内被災市町提供)